



独立行政法人 国立病院機構
村山医療センター

Vol.30

平成 27 年 4 月発行

発行者 院長 朝妻 孝仁

医療連携通信

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園 2-37-1 TEL 042-561-1221 FAX 042-564-2210 <http://www.murayama-hosp.jp/>



撮影：谷戸祥之（統括診療部長）

目 次

- ◇ 成人脊柱変形症（腰椎変性後側弯症）に対する矯正固定術に関する最近の進歩
整形外科医長 金子慎二郎 2
- ◇ 皮膚・排泄ケア認定看護師の在宅同行訪問看護をはじめました
皮膚・排泄ケア認定看護師 佐々木由美子 3
- ◇ 新任スタッフ紹介 4
- ◇ 外科休診のお知らせ 4
- ◇ 副院長退任にあたって 瀬川 徹 5
- ◇ 外来診療担当医師 6

成人脊柱変形症(腰椎変性後側弯症)に対する矯正固定術に関する最近の進歩

整形外科医長 金子 慎二郎



脊椎の変形を伴う成人の疾患の中で、最も頻度が高い疾患は腰椎変性側弯症、または腰椎変性後弯症と呼ばれる病態です。この2つの病態は合併していることが多いため、以降、本稿では「腰椎変性後側弯症」として1つの疾患概念にまとめて概説していきます。最近では、これらの病態をまとめて「成人脊柱変形症」という用語もしばしば用いられます。腰椎変性後側弯症など

の脊柱変形を伴う患者さんに手術を計画する上で、脊柱管狭窄症に由来する愁訴が主なのか、脊柱変形に由来する愁訴が主なのかによって適切な手術内容が異なってきます。実際の臨床では、脊柱管狭窄症に由来する愁訴と脊柱変形に由来する愁訴とが合併している患者さんが少なくありませんが、今回は、脊柱変形に由来する愁訴を伴う患者さんに変形矯正を主目的とする手術に関して、最近の進歩を中心として以下に概説していきます。

これらの手術を受ける患者さんは多くのケースで高齢の方々に、内科的な併存症をお持ちの方々も少なくありません。従って、患者さんの体への負担の少ない、いわゆる小侵襲の手術(minimally invasive surgery: MIS)を患者さんに行うということが重要になってきます。脊椎の手術、特に脊柱変形に対する手術においては、手術内容、即ち、矯正の程度や手術範囲などが適切でないと、早期に再手術が追加になったり、またその再手術がより侵襲の大きい手術になる可能性もあります。真の意味でのMISとは単に皮膚切開の長さが短い手術ということではなく、手術により最大限の効果(maximum outcome)を得る、適切な手術を行うことであり、MISの真の意味を十分に理解した上で、また、それぞれの患者さんの病態を適切に把握・評価した上で、それぞれの患者さんに適切な手術を行うことが重要です。その意味では、中途半端な手術を行うということは、必ずしも患者さんの益にはつながりません。

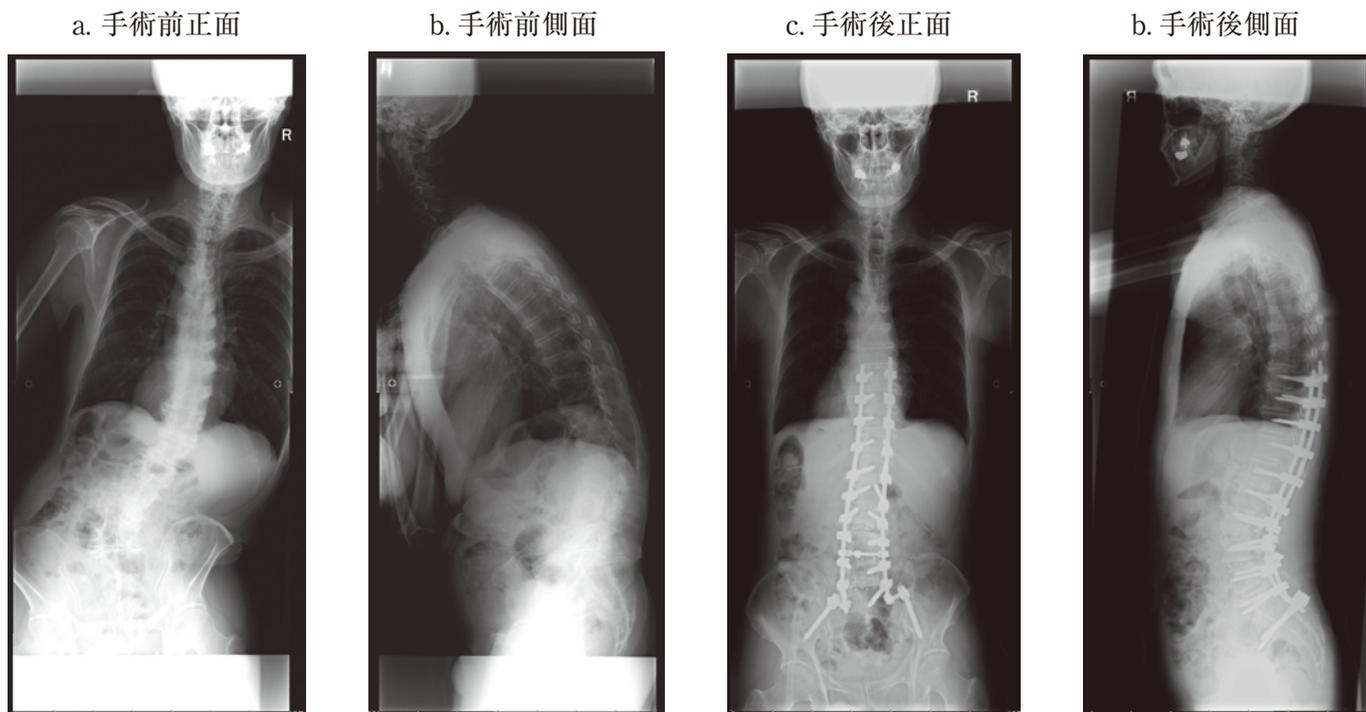
十分な変形矯正のためには、それなりに長い範囲での脊椎矯正固定手術が必要になるケースが多くなります。これまでの様々な研究から、腰椎変性後側弯症で矯正が必要な症例で、中でも脊椎の全体的なアラインメント不良を伴う症例では、下位胸椎から腸骨までを矯正固定手術を行う範囲とすることが適切であることがわかってきており、実際、その様な手術を行うことが多くなってきています(図参照)。この範囲での手術を行い、尚かつ、十分な矯正を得るための手術操作を行う上では、それなりの時間を要し、またそれに伴ってある程度の出血を伴うため、比較的問題の大きい内科的併存症を伴う高齢の患者さんなどに関しては、基本的には手術適応にならないケースもあります。

近年、内視鏡手術の際に用いる器具に似た様な形の特殊な開創器が開発され、これを応用することなどにより、腰椎前側方進入椎体間固定術(oblique lateral lumbar inter-body fusion: OLIF)と呼ばれる新しい矯正固定法が日本にも導入されました。この方法の導入により、矯正固定術の際に重要な部分を占める椎間板に対する操作と骨移植が、より効率の良いアプローチとより合理的な移植方法によって行えるようになってきています。また、OLIFを行う際には、従来の方法では必要であった筋肉を電気メスで切離したり骨を削ったりする操作を行う必要が基本的には無く、出血量も大幅に減らせるということがわかっています。

当院では、これまでの様々な研究から開発されたOLIFの持つ様々な利点を患者さん還元すべく、OLIFを導入しており、腰椎変性後側弯症などの脊柱変形を有する患者さんに対して矯正手術を行う際にもOLIFを併用して行っています。

立位継続時の腰背部痛などの愁訴を有する腰椎変性後側弯症の患者さんがおられ、脊柱変形の専門医への受診を希望されている様でしたら、是非、一度、金子宛に御相談下さい。

図 腰椎変性後側弯症に対する手術前後の立位脊椎全長単純X線写真



皮膚・排泄ケア認定看護師の在宅同行訪問看護をはじめました

皮膚・排泄ケア認定看護師 佐々木 由美子

平成 24 年度診療報酬改定により「在宅患者訪問看護・指導料」「褥瘡専門訪問看護・指導料」の算定が開始されました。政策として医療の提供の場が入院から在宅へと変化する中で、褥瘡をはじめとした皮膚・排泄ケア分野に関する専門性の高いケアの提供が求められている状況です。当施設は、骨・運動器疾患の高度専門医療施設であり、神経・筋疾患の基幹医療施設として認定されています。また、北多摩西部保健医療圏域における地域リハビリテーション支援センターとしても指定を受けており、地域から求められる役割期待に応えて貢献していくために、皮膚・排泄ケア認定看護師の在宅同行訪問看護の体制を整備し実施していくこととなりました。

多くの施設で公開講座を行うなどの努力がなされ、褥瘡に関する知識が以前よりも得られやすいようになっている中、一緒に訪問をしようと選ばれる施設になるには何らかの戦略やセールスポイントが必要でしょう。村山医療センターならではの看護というと、やはり脊髄損傷に特化したケアの提供が行えることだと思います。排泄コントロールや生活指導、寝床環境や家屋調整などの局所ケア以外に必要なことへの介入や、改善に向けた提案を行うことで在宅での褥瘡ケアの質の向上・維持につながるのではないかと考えています。

病院理念である「患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します」は、自施設だけでなく地域で生活している人々を含み、予防の観点でケアの質が向上するように取り組むことは私たちの任務であると考えます。これまでに同行訪問看護の依頼は 2 件いただきましたが、患者さんの褥瘡以外の全身状態の変化などがあり、実際の活動はできていません。状態を安定させながら在宅療養を継続することの難しさや、臨機応変に対応される地域の訪問看護師の頼もしさを改めて実感しているところです。今後も在宅療養を支えるチームの一員として活動を行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

新任スタッフ紹介



麻酔科医師 小澤 治子

4月1日より村山医療センターに赴任いたしました。安心、安全な麻酔、確実な術後鎮痛を提供できるよう周術期管理に力を入れていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

資格 1989年医師免許取得
日本麻酔科学会専門医、指導医



整形外科医師 平賀 聡

初めまして、4月1日より村山医療センターに赴任してまいりました平賀聡と申します。

基本的には外傷など整形一般に関して診療しております。当施設には専門のスタッフが多く在籍されてますので、ご教授いただきながら診療に役立てていきたいと思ひます。

患者さんのADL、そしてQOL向上のためこれからも診療を行ってまいります。

まだまだ若輩者ではありますが、精一杯努力してまいりますのでよろしくお願ひいたします。



リハビリテーション科医師 渡部 桂子

4月から村山医療センターに赴任いたしました、渡部桂子と申します。患者様それぞれの全身状態をみながらリハビリテーションを実施し、より自立度の高い生活、社会復帰を目指してければと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。

外科休診のお知らせ



平成27年4月1日より外科の診療（内視鏡を含む）を当面の間、休診させていただきます。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご了承をお願いいたします。ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先：独立行政法人国立病院機構

村山医療センター

電話：042-561-1221（代表）

副院長退任にあたって

瀬川 徹



平成5年6月長崎大学第二外科（現在の長崎大学大学院移植・消化器外科）から村山医療センターへ赴任し、以来21年10ヶ月間、外科医長、統括診療部長、副院長としての業務を務め、本年3月31日付定年退職を迎えました。その間病院スタッフおよび地域の諸先生方には並々ならぬご支援をいただきありがとうございました。

赴任当時は結核の2個病棟を有していましたが、結核患者数の減少により、その後閉鎖となりました。H16年には独立行政法人へ移行し、国立療養所村山病院から現在の村山医療センターへ改称されました。

診療に関しては、当院は整形外科・リハビリ科を中心に経験豊かなスタッフにより、整形外科では脊椎疾患、関節疾患の手術を幅広く手がけており、遠方から治療を希望される患者さんが来院されます。リハ科では2次医療圏のリハビリテーション支援病院に指定され、リハビリの中心的施設と位置づけられています。当院は40床の回復期病棟を有し、豊富な人員を有するリハスタッフにより、早期に機能回復が進み社会復帰が可能となっています。

私は臨床外科医として、特に地域医療に貢献したいと思い頑張ってきました。赴任当時は外科医3名体制でしたが、その後患者数および手術件数の増加により外科医の増員が認められ、4名体制での診療となりました。しかし全国の大学病院で外科の入局者は減少し関連病院への影響が及ぶようになり、当院でも外科医の派遣が困難となりました。したがって当院でも5年前には小生1人で診療を行うことになり、外科診療を維持できなくなると考えていました。現在当院では外科・内科医の不足は深刻で、地域住民の要望に十分応えることができていないことは、誠に申し訳なく思っています。特に4月からは外科医師が不在となり、外科診療科の休診を余儀なくされました。今後は早期に外科診療の再開を願っております。

また赴任当時から病院建物は老朽化が指摘されていましたが、4年前の東日本大震災では病棟の一部が損傷を受け、1個病棟を閉鎖し、入院患者の制限を余儀なくされました。その間、多方面に多大なご迷惑をおかけしました。しかしその後は病棟建て替えの気運が盛り上がり、病院職員一致団結して患者数の確保に努力してきました。その結果、3年前から経常収支も100%以上となり、現状では右肩上がりの成績が認められ、この度念願の新病棟建設のゴーサインが出たことは、全職員にとりまして朗報と受け止めています。今後とも当院へのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

外 来 診 療 担 当 医 師

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

平成27年4月1日現在

■ 一 般 外 来

 ※受付時間 (初診：8時30分～11時まで)
 (再診：8時30分～12時まで)

診療科等		月	火	水	木	金	備 考	
内 科		片 寄	岡 田	片 寄	岡 田	岡 田		
外 科		休 診 中						
整形 外科	再 診	脊椎	○朝 妻 ○竹 光	◎谷 戸 ◎藤 吉	○○金 子 ○八 木	○町田 (正) ○許 斐	◎安 田 佐 藤	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	中 村		窪 田		笹 崎	股・膝関節・下肢
	一般		平 賀		町田 (真)			
	初診	交替制						
リハビリテーション科		渡 部	植 村	倉 片		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…倉片 第2金…植村 第3金…渡部	
歯 科		宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	

■ 専 門 外 来

※受付時間 13時～

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
内科リウマチ					片寄 (13:00～)		
側 弯		齋藤 (第4週のみ)		八木 (13:30-15時)	町田(正) 金子(第2・4週14-17時)	八木 (第2・4週15-17時)	予約制
骨粗鬆症 (13:30～15:00)					町田(正)		予約制
装具外来 (リハ棟)		植村/倉片/ 渡部					予約制
検 査	超音波	頸部・甲状腺/腹部・骨盤					予約制
		下肢(病棟)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(病棟)	予約制
	消化管造影 検査						予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

外来受診電話予約のご案内

受付時間：月～金（平日）の 午後1時～5時

外来予約専用電話：042-561-1698

042-561-0965